

かがやく女性

題字
福井県知事 西川一誠
第26号
発行者
(財)ふくい女性財団

ふくい女性財団の研修事業の大きな柱である「地域ネットワークリーダー研修会」。今年は、2地域が自主企画に取り組み、5地域で女性財団提案企画が実施されました。その内容は…

〔5地域で開催〕

コミュニケーション

「相手も自分も活かす関わり方」

講師 オフィス上村 代表 上村 泰子氏

講師自身の経験やご家族との触れ合いなど親しみ感じのお話の中、「TA（交流分析）」とは、自分自身に気づき、自律性を高めることを目指す分析法です。過去や未来ではなく今この自分に気づくことにより、自分自身で主体的に適切な意思決定ができ、人との温かい交流により健全な生き方ができるようになります」と講座はスタート。

2人組で相手の目を見つめ、にこやかに会話をするというワークで、相手の立場への理解を示しながら、自分の考えを率直に表現することの重要性を体験。「話し上手は聞き上手」となるよう①うなずき②あいづち③視線④質問⑤メモの各効果から聴き方の5大ルールを教わりました。

また、自我を知るエゴグラムのワークシートにより各自で自己診断。自分の自我状態に気づき、必要であれば望ましい状態にセルフコントロールする

ことで、他の人と生産的な関わり方やコミュニケーションを促進することができると学びました。

まとめとして「相手を認めて一歩下がって関わること」をポイントとされ、「わかちあう 仕事も家庭も喜びも」（内閣府募集20年度標語最優秀作品）を推進しよう、と、結ばれました。

各市町ネットワークは、男女共同参画を目指し、異なる分野に取り組む団体で組織されています。各団体の相互理解とコミュニケーションを図る上で、意義ある研修会となったようです。



よりよい活動のために！

地域ネットワークリーダー研修会

毎年7会場で、自主企画あるいは女性財団提案企画で実施。
1年に200人以上が研修を積んでいます!!



〔坂井・あわら地区の自主企画〕

男女共同参画について「次の世代に何を残しますか」

講師 人材教育研究所 主宰 花谷 美智子氏

① 福井県の現状

労働力人口の4割以上は女性なのに、女性の声が届いていない。ぜひとも県政の場に女性を送ることが必要。

② 組織の活性化について

活性化には、共同体意識、共通の目標意識、情報の共有化、自己の役割意識の4つが必要。

③ リーダーとしての役割

与えられた状況の中で目標を達成するために、メンバーの資質・状況を理解し、適切に役割を分担しなければならぬ。そのために、専門的能力、課題設定能力、対人的能力を身につけることが必要不可欠である。

④ 女性のさらなる活躍を期待

トップの適確な判断力が重要な時代である。また、女性の個々の力を結集すれば必ずや大きな力となるでしょう。

〔福井・永平寺地区の自主企画〕

家庭は意識して作る時代

講師 和田教育研究所 所長 和田 周平氏

世の中には、男と女が結婚して生活すれば自然に家庭や家族ができると考える人がいますが、今の時代は違います。では家庭を意識的に作るにはどうしたらよいのでしょうか。夫婦の機能面から家庭を見つめてみましょう。夫婦で力を合せることには次の4つのことがあります。

① 心理的機能 ② 経済的機能

③ 性的機能 ④ 教育的機能

これらの機能を充実させ、夫、妻、父、母それぞれの立場から心の奥に「家庭」を意識して生きなければならぬ時代となっているのです。子どもが育っていくには、親の支えが必要です。私たち一人ひとりの一生を支えるには、家族の力が必要なのです。



やっぱり大切!!
日頃のご近所付き合い

ふくい女性塾 (9月27日～12月6日)

いろいろな
学習形態を
取り入れた
6日間!!

災害発生!! その時どうする?



福井県大飯原子力防災センター見学



総勢12名の先生方



福井市防災センター見学(疑似体験など)

- 防災(災害復興含む)についていろいろな学習形態で、学びました。
- 講義・体験発表
 - 事例発表
 - 過去の災害映像視聴
 - 視察研修
 - 公開講座
 - 体験学習(疑似体験)
 - 実技習得(普通救命講習)
 - グループワーク(KJ法)
 - 6回のふりかえり&質疑応答
- 自助・共助・公助の比率は7:2:1**
- 災害が大規模・広範囲に起きた場合、公助のパワーは著しくダウンし、被災現場は放置されます。阪神・淡路大震災では、多くの人が自分たちで、または地域の人たちに助けられたそうです。
- 「今、ここで、このメンバーで」**
できることをする
- 豪雨が発生して町内が被害に遭ったと想定し、どう行動するかグループワークをしました。支援が来るまでは、そのメンバーだけで対応しなければなりません。各グループで話し合った主な行動は次のとおりです。
- 家族・住民の安全確認**
- 家族の安全確認。
 - 近辺の安全確認。安全な避難場所の確保。
 - 避難する場合、家の火の始末。
 - 地域の住民、特にお年寄りや子ども、要援護者の安全確認、救助。
 - けが人の手当て。

- ライフライン**
- 防災グッズの持ち出し。食料確保。
 - 水道・ガスの確認、炊き出し。
- 連携・コミュニケーション**
- 役割を話し合う。
 - 区長や地域のリーダーなどへ連絡。
 - 組織に協力依頼。
- 正しい情報収集**
- ラジオ・テレビなどで河川や雨量、道路などの状況把握。
 - 周辺の状況を確かめる。
- 日頃の備えと心の準備**
地域で、顔の見える人間関係
- 「災害時に大切なことは、まず自分・家族の命を守ること。そして隣近所の助けあい。そのためには、日頃からの備えや地区の人同士のつながりが大事」とは、地区で防災の活動をしている講師の方々共通の言葉でした。そして防災活動、災害時やその復興の場面で女性の担う役割の大きさも見えてきました。
- 防災対策に女性の視点を**
- 災害対策は男性の仕事という意識が強く、災害現場での女性への配慮が欠けがちです。女性の視点から防災対策をすすめるためには、県や市町の防災会議、消防団、自治委員の女性の比率を増やすことが大事だと学びました。
- ★平成21年度ふくい女性塾
テーマ「科学技術」(今秋開催予定)



グループワークの結果

- 子育て講座**
- 緊急サポートネットワーク事業は働く保護者の「突然の困った…」に対応しています。その支援者と一般の方を対象に「子どもの育ちにもっと感動しよう」と題して講座を開催しました。
- 保育士、臨床心理士、育児中の母親(助産師)の3人のパネラーが、まちづくりプランナー水上聡子さんをコーディネーターとして、それぞれ専門的立場から子育てについて語りました。
- 子どもを認め、成長に寄り添っていききたい、親も子育てをしながら育っていくということなどの話がありました。
- フロアーから多くの質問もあり、子育てを楽しみ、みんなで子どもを育ちを支援していこうとする熱意にあふれた講座となりました。

福井県議会傍聴

中学生以上の方は、本会議および委員会が傍聴できます。

女性財団では、男女共同参画セミナーとして、9月定例会本会議を傍聴しました。(参加者31人)

9/24



いきいきウーマン

勝山市消防団本部に所属する、市内12地区から選任された女性団員23名のリーダーとして活動されている山内加代子さん。きりりとした表情と、人を包み込むような笑顔が印象的で、「感謝」「仲良く」という言葉が随所に出てくるインタビューとなりました。

Q 活動内容は？

平成4年に入団勧誘を受け、男性ばかりと思っていた消防団に、女性の活動の場が開かれていることを知り、入団しました。勝山では女性消防団員が「ファイヤーヘルパー」として、独居老人宅への訪問指導を行っており、大変好評で嬉しく思っています。男性が訪問するより警戒心が薄れ、親しみや信頼を得ているようです。その他、消防総合訓練で住民の避難誘導や初期消火、心肺蘇生の指導、火災予防運動時にチラシ配布など啓発活動も行っています。

Q 職場、家庭、消防団の両立の工夫は？

入団以来、夫が家事のことまで黙って手伝ってくれるようになりました。特別話し合ったわけでもなく、温かい理解、思いやりに心から感謝しています。もちろん勤務先の理解があることはいうまでもありません。

Q 活動を通して感じることは？

ルールを守る、決められた無駄の無



勝山市消防団

本部部長

山内 加代子 さん

かつては選手として出場した綱引き。現在は審判員として県大会にも出向くが、「男性は優しいですね」という山内さん。休日は夫婦の時間を大切にしているそう。

*消防団員は、通常、各自の職業につきながら平時の予防・防災活動や火災時の消防防災活動に従事します。県内では平成3年に初の女性団員が勝山市に誕生。20年4月現在県内では71人(全体の約1%)が活動しています。

Q 後に続く女性たちへの助言は？

モラル(moral 道徳)とモラール(morale 士気)の向上を図って欲しいですね。団員として必要なことを身につけ、市民のために「やってあげる」ではなく、「やらせていただく」という感謝の気持ちを持って欲しいです。

い動作をきちんとこなす、きびきびとした動きなど、日頃の生活の中で取り入れるべき事柄がたくさん含まれていると感じます。また、女性団員が長く続けられるような配慮や、何でも話せる雰囲気づくりに心掛けています。

ネットワークから

「あわら男女共同参画のつどい」を終えて

あわら市男女共同参画ネットワーク 会長 大木下 美智子

12月7日(日)にあわら市中央公民館において、「あなたとわたし 感謝で結ぶ女と男〜広げよう思いやりの輪〜」をテーマに約300人が集い、「第5回あわら男女共同参画のつどい」が開催されました。当日は、男女共同参画に関する感謝状・図画の入賞者の表彰、市男女共同参画推進市民会議による寸劇、樋口恵子氏による講演会という内容でした。男女共同参画に関する感謝状・図画の募集には、今年もたくさんの応募があり、市民の方々に、作品作りを通して男女が協力し、助け合うことの大切さ、男女共同参画について考えていただ



きよい機会になっていると思っています。今後も男女共同参画社会の実現に向けて、この行事を続けていくつもりです。

全国会議体験記

「日本女性会議 2008 とやま」に参加して

ふくいソフィアの会 会長 安川 悦子

「煌く人とひと、連なる峰々へ」のテーマのもと、10月17日・18日に全国から約2500人(当会からも20数名)が参加。園児によるベルパフォーマンスと伝統芸能「越中おわら」で開幕。板東久美子内閣府男女共同参画局長から政策と課題についての基調報告の後、基調講演で広岡守穂中央大学法学部教授は「見つめたり求めたり認めたりしてくれる人がいて、水平な高さで、自由で対等に見つめ合う。これを実践する社会につなげることが大切である」と話された。

私は「政策決定における男女共同参画」の分科会に参加。3人の女性パネリストは、地域社会、企業、国・自治体で、自ら考え、勇気と元気を持って意欲的に、責任と信望厚く参画し、成果をあげている現状を語られました。高橋はるみ氏(北海道知事 富山市出身)の「何事も一生懸命にやる」という言葉が印象的でした。

様々な課題についての学習や意見交換、交流等により視野を広めることができた2日間でした。

★今年の日本女性会議は、10月30日(金)・31日(土)に大阪府堺市にて開催予定です。今年はぜひあなたがお参加を！

い*ま*活*躍*し*て*い*ま*す

国際ソロプチミスト若狭

会長 吉田和子

私もクラブは、国際組織の一員として、認証を受けて21年目を迎えました。「地域社会と世界の女性と女兒の生活向上」を目指して、視野の広い活動に取り組んでいます。

9月から翌年の8月までの間に、6奉仕委員会（①経済的/社会的 ②教育 ③保健 ④環境 ⑤人権 ⑥国際親善と理解）が、それぞれの立場から、ニーズにあった問題を取り上げ、9月から年間プログラムにより、講演会、水産高校のアマモサポート、命・環境・家族などを題材として小学生の主張大会を開催し、表彰。ほか女性4団体と協力してDV防止活動や高校生のユース・フォーラムへの参加を応援。世界と地域への支援活動をしています。

また活動資金を得るため、毎年チャリティ・ディナーショー

等企画・実行し、市民の方々に協力と理解をお願いし

て今後も奉仕活動に取り組んで参ります。



例会で手話を勉強中

女性会議福井

議長 白井信子



一昨年、結成45周年を迎えた本会は、(アイ)に三つの意味が込められています。一つには私自身、二つには友愛、三つには目です。すなわち女性の人権(ジェンダー平等)、平和、くらし等にしつかり目を向けた運動に取り組んでいます。

昨年度は、アオッサで開催された平和フェスタです。いんとんを作り、平和な今日の食生活と比較する機会を提供したり、「お国言葉で憲法を」と福井弁で憲法9条を朗読するなどの発表をいたしました。

今年度は「くい止めよう！地域医療の崩壊」と題して、女性会議福井の生みの親である、元参議院議員の清水澄子氏を講師に招いて、講演会を開催しました。安心・安全なお産や後期高齢者医療制度(長寿医療制度)の問題点とその解決を探るというものでした。その他の活動として、機関紙「女性性の新聞」にちなんだ「しんぶんまつり」を開催するなど、時宜に合った問題を取り上げ、積極的に活動しています。

若狭女性ネットワーク

会長 勢馬千恵子

上中町と三方町が合併して若狭女性ネットワークが誕生いたしました。今年で4年目が経過いたしました。加盟12団体が、それぞれ独自の活動をしながら、女性を取り巻く諸問題を考え学習し、参加し、行動しております。

若狭女性ネットワークとしての活動は次の通りです。

●講演会の開催

10月に「男女共同参画のつどい」を毎年開催いたしております。少しずつ男性の参加が増えてきており、嬉しく思っております。

●広報誌を全戸配布

年一回広報誌を発行し、ネットワークの活動を知っていただくために若狭町全戸に配布しております。

●町のイベントに協力・参加

それぞれのイベントには、ボランティアで出られる人が協力、参加しております。

今、福井県の子どもたちは全国において、学力も体力もトップクラスで頑張っています。

私たち女性も先輩としてできることで活躍していきたいと思っております。



★ふくいきらめきフェスティバル2009★

とき 平成21年6月13日(土)・14日(日)
ところ 福井県生活学習館

編集後記

今回掲載したふくい女性塾の「災害発生！その時どうする？」は、緊急時の防災を改めて問い直す大切な企画でした。また、男性社会の消防団で活躍する女性に、力強い存在を感じ拍手です。

発行者

(財)ふくい女性財団

〒918-8135 福井市下六条町14-1
福井県生活学習館(ユー・アイ ふくい)2階
TEL:0776-41-4254 FAX:0776-41-4260
E-mail:fujho-zai@cnr.ne.jp URL:http://www.fjhosei.or.jp

これからも
子育て支援は続けますよ。
ご安心を！

子育て支援(ファミリーサービスクラブ)

厚生労働省

緊急サポートネットワーク事業の今後について

平成17年度から実施してきた緊急サポートネットワーク事業は今年度で廃止となり、国は21年度から「病児・緊急預かり対応基盤整備事業」として仕事と育児の両立支援策の準備を進めています。当財団も、ファミリーサービスクラブとともにこれまでの実績を活かし、国の新事業への取り組みを含め、関係機関との連携を深めながら子育て支援への取り組みを継続していきます。